

1 授業の目標及び内容

本授業は、次の 2 点を目標として実施した。

①日本を中心とした教育実践史の概要と主な教育実践の意義について説明することができること、②教育実践の歴史的経緯を踏まえ、今日の教育実践の意義について自己の考えを述べるができることである。また、中核的な DP として、「2 B 教育の現代的課題への対応方法」及び「5 A 専門的職業人としての使命/責任感」を掲げて取組んだ。

授業内容の概要はシラバスに示したとおりであるが、明治期から現代までの我が国の代表的な教育実践を中心に、学習指導的側面が強いものと生徒指導的側面が強いものに分け、具体的事例をもとに学習を進めた。主たる教材は、毎時間印刷配布した資料のほか、参考図書として図書館にあるシラバス図書の中から随時紹介した。

授業形態は、授業内容によって多様な形をとった。授業実施前に行った調査において、歴史的な教育実践に関する知識がほとんどない状態であったことから、グループ協議の場面を織り交ぜながらも、知識・理解に軸足を置いた授業を基本とせざるを得ない状況であった。しかし、そうした中において、15回にわたる授業の中盤に、学生の既習事項を活用できる題材で、クラスを2分してディベートを行う場面を事前・事後の活動を含め3時間にわたって位置付けた。

2 授業評価

次ページの表は、最終回の授業の中で実施した DP 対応学生認識調査に関する調査結果である。本調査結果を手掛かりに本授業を振り返ると、次のような成果と課題を挙げることができる。

まず、成果として次の 2 点を挙げることができる。1 点目は、「1 B 自分の専門分野の知識」及び「5 A 専門的職業人としての使命/責任感」の肯定率が 100% となっており、中核的な DP として掲げている「5 A 専門的職

業人としての使命/責任感」については、高い評価結果を得ることができた。本授業では、教育実践史に残る我が国の代表的な実践事例を学習指導及び生徒指導的側面が強いものに分けて取り上げ、実践者の考えにも触れながら具体的に学習を進めた成果であると考えられる。

2 点目は、「1 A 教育に関する確かな知識」及び「1 B 自分の専門分野の知識」の項目において、「とてもそう思う」が約 3 分の 2 を占めており、コア・カリキュラムや生活綴方教育など、これまで単語としてのみ知っていたものが、具体的事例を通して学んだことにより理解が一層深まったのではないかと考えられる。

また、課題として次の 3 点を挙げるができる。1 点目として、「2 B 教育の現代的課題への対応方法」及び「3 B 教育活動に取組むための表現力」、「4 B 理論と実践を結ぶ主体的学習」の各肯定率が 80% 台と他と比べると低いことである。中でも「2 B 教育の現代的課題への対応方法」は中核的な DP として掲げていたものであり課題も大きい。肯定率が芳しくないこれらの DP は、日本の子どもたちの課題として挙げられてきた「思考力・判断力・表現力」や「学ぶ意欲」と深く関わるものであり、授業設計の在り方を一層工夫する必要がある。

2 点目は、「5 B 多世代にわたる対人関係形成力」の肯定率が 70% を下回る低い数値であったことである。本講座は、2 回生から 4 回生が共に学んでいたにも関わらず、異学年が交流する場の設定が不十分であったことを物語っている。改善を図りたい。

3 点目は、授業外学習の時間が「課題」「自発」ともに平均 0.5 時間程度と低いこと、自発的読書や自発的活動を全く行っていない学生が 80% 以上を占めていることである。授業の中で関連図書等の紹介は適宜行ってきたが、自主的な活動にまで至っていない。学生に対する働きかけを工夫していく必要がある。

3 本授業における時間外学習促進の工夫

本授業では、授業時間外学習を促進させるため、次の3点を重視して実践した。

1点目は、授業の終わりに次時のテーマを示すとともに、参考図書を紹介したことである。

2点目は、必要に応じて予習課題を提示し、予習を求めたことである。右図の資料は、ディベートに向けての事前準備としての予習課題を含む部分を示したものである。本事例では、既習事項を踏まえ、自分が選択した学習スタイルに関する「自己の考え」の部分を整理してくることを求めた。そして、次時に予習事項を基に、グループ協議を行い同じ立場を選択した者同士の考えを整理した上で、クラス全体でディベートを行った。

3点目は、毎時間の生徒の授業評価を基に授業改善を重ね、学生の学ぶ意欲を高めることに努めたことである。本授業では、毎時間、「理解度」と「興味・関心」の2点のみの簡単な評価を試みた。(右図参照)分かる楽しい授業づくりは、年齢に関係なく、主体的な学習態度の形成に効果があることを感じた。

4 今後の課題

今後の実践は、自分にとって初めて担当する授業であったこともあり、シラバスで計画していたことが十分に実践できたとは言えない状況にあると感じている。この度の授業評価を踏まえ、本学が重視している時間外学習の促進に向け、今後の重点課題として次の3点を設定したい。

1点目は、授業で提示する具体的事例を事前配布し、毎時間の予習として位置付けること。

2点目は、予習をしておかないと支障が生じると感じるような授業展開を工夫すること。

3点目は、自発的な授業外学習の状況を毎時間把握し、その結果を返すことである。充実している学生の状況を授業の中で紹介するなどして意欲化を図りたい。

これら以外にも、方法は考えられるが、次年度はこの3点について重点的に実施することを通して改善に取り組みたい。

★小レポート

① よりよいと考える理由

(問題解決) 学習

自己の考え
 ・学習指導要領原則に「生きた力」が示されている。「生きた力」授業のうちの
 一つが「問題を解決する資質・能力」とされているから。
 ・思考力・判断力・表現力を高めるには、正しい学習法と工夫が必要だから。
 ・PISA調査や全国学力テストにおいて問題視されているのは、基礎基本の
 理解が、身につけた知識を実生活で活用する力の前だから。
 ・子どもたちが自分の見つけた問題に向けて、達成感と喜びを感じてほしいから。

グループ
 読行錯誤の過程が生きていく糧となる
 社会参加(就職後)
 学習意欲

② ディスカッションを組んだ授業でとても楽しめた。問題解決学習にはこんな良さがあるのではないかと突然思った。今日、二宮先生の発言中に系統学習を行う中で問題解決学習を行うべき、というものがありましたが、その通りだと思いました。

★本時の授業について、該当する番号に○印

(高) ← (低)

理解度 (3) 3 2 1
 興味・関心 (4) 3 2 1

〔図〕ワークシート

〔表〕 DP 対応学生認識調査結果の度数分布(%)と肯定率(N=23 回収率 92%)

	1	2	3	4	肯定率	
1A 教育に関する確かな知識	65.2	30.4	4.3	0.0	95.7	
1B 自分の専門分野の知識	65.2	34.8	0.0	0.0	100.0	
2A 教育をめぐる様々な現代的諸課題	39.1	52.2	8.7	0.0	91.3	
2B 教育の現代的課題への対応方法	30.4	52.2	17.4	0.0	82.6	
3A 教育活動に取り組むための技能	39.1	56.5	4.3	0.0	95.7	
3B 教育活動に取り組むための表現力	21.7	60.9	13.0	4.3	82.6	
4A 自己の学習課題の明確化	39.1	56.5	4.3	0.0	95.7	
4B 理論と実践を結ぶ主体的学習	26.1	60.9	13.0	0.0	87.0	
5A 専門的職業人としての使命/責任感	30.4	69.6	0.0	0.0	100.0	
5B 多世代にわたる対人関係形成力	26.1	43.5	17.4	13.0	69.6	
	0	0.5	1	2	6	M
授業外学習(課題)	30.4	34.8	30.4	4.3	0.0	0.57hrs
授業外学習(自発)	52.2	26.1	13.0	4.3	4.3	0.61hrs
	0	1	2	3	M	
自発的読書	82.6	4.3	4.3	8.7	0.39	本
自発的活動	91.3	4.3	4.3	0.0	0.17	件